



＊読書の楽しさ

3か月ほど前から、読書の楽しさにはまってしまいました。

発端は子供が持っていたマンガ本（コミックス）を読んでみたことでした。子供部屋に風を通そうと入ったところ、何巻もシリーズになったコミック本があり、机の上に積み上げられていました。内心、「狭いところに、こんなに買ったためて・・・」と小言めいたことを考えながらそれらの本を積みなおしていたのですが、手に取ってみると内容も画風も全く異なり、わくわくする話ばかり。これを描くのにどれだけ資料を集め、考えたのだろうと感心してしまいました。プロ集団とはいえ、絵（画）も上手だなとしみじみ思いました。しばらくして子供が所蔵するマンガを読み終えた私は、次の楽しみを模索しました。「そうだ、マンガだけでなく小説や詩集、随筆、図鑑なんでも読んでみよう!」と思い立ち、期限



なしで100冊を目標に読書をはじめました。マンガ本のように絵がないので飽きないかなあと心配しましたが、情景や心理描写が文章でちゃんと表現されており、自分の脳裏に映像が浮かぶことに気がつきました。作者がイメージした通りではないかもしれませんが、私は自由に思い浮かべて楽しんでいきます。

私の母は、幼児期の私に毎月、本やレコードを買ってくれました。小さな村で暮らしていたので、本屋さんは近所にはなく、おぼろげな記憶では郵便小包で届けてもらっていたような気がします。そのころ読んでもらった絵本やレコードで聴いた歌は今でも断片的に覚えています。お気に入りだった絵本は、私も子供に読んできかせましたし、一緒に歌も歌いました。母は情操教育の一つとして私に買い与えていたのか、自分も好きで買っていたのかわかりませんが感謝しています。しかし小中学生、高校生のころの私にとって、読書とは宿題の感想文を書くためにしょうがなく本を読む行為でした。



それでも子供時代に母が私に植え付けてくれた本を楽しむ種は、どこかに眠っていたのだと思います。またその種が芽を出し、今の私に楽しみを与えています。

思いがけないことから新たな楽しみが見つかることもあります。

秋のお散歩コースにぜひ図書館も加えてみてください。おすすめです。